令和６年４月１日

2023 年度　自己点検・自己評価

学校法人湖南学園
早稲田外語専門学校
校長　井上　正

５：達成している　４：ほぼ達成している　３：どちらとも言えない　２：取り組みを検討中　１：改善が必要

１．教育理念・目的等		評価
1	1－1　理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1‐2　学校の特色は何か	5
3	1‐3　学校の将来構想を抱いているか	5
4	1‐4　理念に基づく教育が行われているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

世界どこの国にいても人の役に立てる「グローバル人材」の育成が本校の使命と考える。そのため語学の習得のみならず、校外学習や文化体験を通して、その国（言語圏）への理解を深め、コミュニケーションが円滑に取れる人物を養成する。マスプロ教育を廃し、少人数教育に徹し、学生一人一人に寄り添った教育を実践している。今後、よりグローバル化する世界に有能な人材を送り出すべく独自の教育プログラムの開発、実践を今後も行っていく。

2．学校運営		評価
5	2‐1　運営方針は定められているか	5
6	2－2　事業計画は定められているか	5
7	2－3　運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8	2－4　人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2－5　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5
10	2－6　学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5
11	2－7　危機管理体制は整備されているか	4
12	2－8　施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

学園の理事会、評議委員会監督のもと、毎年度年間スケジュールに沿った事業計画、運営が行われている。実務については、学校長をトップに、教務部門、事務部門の密なる連携によりスピード感のある意思決定がなされている。

各職員の処遇は湖南学園就業規則に則り行われている。

実務に使用する情報機器は時代に合ったものを採用し、ソフトウエアは随時更新され、最新の状態のものを各教職員が使用し、業務を行っている。業務用クラウドシステム等も導入し、情報共有が常に図られている。また、教職員専用の SNS を導入し、どこにいてもコミュニケーションは常に取れる状態になってい

る。
地震・災害などの危機管理については「危機対応マニュアル」を作成し、各教職員に周知し、有事の際にも困らぬよう今後学校全体での避難訓練も今後実施の予定。
施設･設備に関しては定期的（年３回）に点検を行うが、不具合が発生した場合は、定期点検を待たず、なるべくすみやかに修繕・修復を行い、学校内の安全確保に努めている。

3. 教育活動		評価
16	3－1　カリキュラムは体系的に編成させているか	5
17	3－2　授業評価の実施・評価体制はあるか	5
18	3－3　目標に向け授業を行うことができる要件資質を備えた教員を確保しているか	5
19	3－4　成績評価は適切に行われているか	5
20	3－5　各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉
　英語の専門学校である当校は学校の理念でもあるグローバル人材の育成を目指し、年間授業時数９００時間、２年間で１８００時間英語を学べるカリキュラムを提供している。
　英語の４技能を鍛える授業では、入学前のレベルチェックテストの結果によって細かくクラスが分けられ、初級から上級まで体系的に学べるようクラス編成を行っており、クラスは年間４回定期試験のタイミングでレベルにミスマッチが起きぬよう再編成が行われている。
教務課責任者監督の基、実務経験が豊富な教員も含んだ授業担当教員がカリキュラム（シラバス）を作成、そのカリキュラムに沿って授業を行っている。各レベルで目標到達レベルを設定し、生徒及び講師が明確な目標に向かい授業が運営できるような体制になっている。
成績評価は定期試験の得点に加え、授業態度や提出物、出席率などを見て総合的に判断し、授業担当教員が評価をおこなう。また各期の最後に学生に自己評価、授業評価、講師評価、カリキュラムの評価をアンケート方式で行い、その結果を次期の授業や講師への指導に反映させている。
また、留学生に対しては受験者が多い日本語能力試験の対策授業を開講し、各授業で過去問題を使用するなど実践的に問題が解けるように指導をしている。

4. 学習成果		評価
21	4―1　就職率の向上が図られているか	5
22	4－2　資格取得率の向上が図られているか	4
23	4－3　退学率の低減は図れているか	4
24	4－5　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
25	4－6 卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

当校では就職希望者に対して「キャリアデザイン講座」を１、２年生ともに毎週１回開講している。その中で自らの適性を把握し、進路を見定め、担当教員の指導を受け、早期に就職内定を獲得している。また、担当教員が卒業生と定期的に連絡を取り、本人から現状を聞き、そのフィードバックを授業内でも反映し

ている。
　また、希望の仕事に就職するには検定試験で上位の級に合格することも有効であるため、英語の資格である「英検」の授業を準２級から１級まで設置し、合格率の向上に努めている。また、同じく就職に有利な「TOEIC®」については必修科目として位置づけ、生徒全員の得点アップを学校挙げて支援している。
　生徒全員が英語のレベルアップを実現し、卒業して希望の進路に進むのが一番であるが、毎年一定数の退学者が出てしまう。突然の病気による退学など対処できない事案もあるが、レベルが合わず落ちこぼれてしまい、退学するといったことをなくすべく、前述したような細かなクラス分けによる授業、授業後専任、準専任教員によるフォローを毎日行っており、基礎レベルで入学した生徒が英検準一級に合格するなど個別フォローの成果も出ている。

5．学生支援		評価
26	5－1　学生相談に関する支援体制は整備されているか	5
27	5－2　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	5
28	5－3　学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5
29	5－4　課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
30	5－5　保護者と適切に連携しているか	4
31	5－6　卒業生への支援体制はあるか	4
32	5－7　社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

〈現状・具体的な取り組み／課題〉
　ホームルーム担当教職員により年間２回個別面談を実施し、個人の進路、授業、学校生活のサポートを行っている。
経済的に厳しい生徒に対しては奨学金の案内を行ったり、学費の分割回数を多く設定するなど、アルバイトし過ぎて学業がおろそかにならぬよう配慮を行っている。
年１回の健康診断で生徒の健康をチェックし、受診の必要のあるものには受診勧奨を行い、希望があれば病院の紹介も行っている。不測の病気・事故・怪我等の際には学校近隣のクリニックや総合病院の紹介、場合によっては付き添いもおこなっている。
コロナウイルスをはじめとした感染症防止のため、学校として国の指針に沿ったガイドラインを作成し、濃厚接触者や実際に罹患した学生については、ガイドラインに沿って医療機関の受診や自宅待機の指示など行い、学校内で感染が広がらないよう万全な措置をおこなっている。
メンタルカウンセラーが定期的に学校に常駐し、クラス担任などでは対応が難しい相談についてはカウンセラーからの指導が受けられる体制となっている。対面でのカウンセリングに加え、休日も利用できるメンタルヘルスの相談窓口も開設している。本人のみならず、保護者の利用も可能となっている。
当校には Student Council（生徒会）が組織されており、学内イベントの企画・実施など生徒主体となり行っている。学校としては生徒会と連携しながらイベント実施の際のサポート、活動費の負担などを行っている。
保護者には成績報告とともに定期的にお便りを送付。学校の状況をお知らせしている。何か問題があった場合は、すみやかに状況を報告し、本人に対するケアを協力して行っていく。
近年入学者の中に仕事を休職したり、一度退職して学び直しをする社会人の割合が増加してきているため、社会人向けに１年間で修了できる１年制コースを設置。短期間でスキルアップを行い、また社会へ戻りた

いという社会人にニーズに応えている。 在学生のみならず卒業生についても就職情報の提供、各種証明書の発行、ビザ更新時の情報・資料提供、及び必要に応じて各種相談を受け付けている。

6. 教育環境		評価
33	6－1　施設・設備は、教育上の必要性を十分対応できるよう整備されているか	5
34	6－2　学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	5
35	6－3　英語教育に適切な教員は配置されているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

教室やその他設備は併設の日本語学科と共同で使用している。そのため、本校だけでは十分な教室数が確保できないため、系列校の早稲田ゼミナールの施設も使用して授業をおこなっているため、余裕を持った教室確保ができている。

英語の学校であるが、海外研修は必須とはしていない。ただし、希望者にはホームステイや海外語学研修の案内を行っている。

当校で指導を行っている教員はほとんどが英語ネイティブの教員で、全員が指導資格を持ったプロである。会話の上達ばかりではく、英語圏の文化に触れたり、ネイティブ独特の表現を学べたりと、専門学校ならではの興味を持って深く学べる環境が整っている。

7. 学生の募集と受け入れ		評価
31	7－1　高等学校等接続機関に対する情報提供等の取り組みは行っているか	5
32	7－2　学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7－3　学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4
34	7－4　学生納付金は妥当なものとなっているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

高等学校や日本語学校など接続する機関に対する情報提供については学校訪問、入学案内書送付、当校ホームページ等により行われている。

生徒受け入れのガイドライン（内規）を設定し、生徒募集の指針としている。入学方法、出願期間等については東京都専修学校各種学校協会の決定を遵守し設定している。入学案内書やホームページ、学校説明会を通し就職状況、資格取得状況等は広く一般に伝えられており、入学選考も上述のガイドラインに沿って行われている。

学生納付金については変更の都度、積算根拠を示し、新宿区の承認を得ており、妥当な金額となっている。

8. 財務		評価
36	8－1　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
37	8－2　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
38	8－3　財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8－4　財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

学園設置者においては、所有する預金残高・保有資産等から十分な財務基盤が確立されている。この点は中長期的にも、ほぼ安定した財務基盤にある。

予算・収支計画については、先述の理事会・評議委員会の場で、公開及び検討の後、各会で承認を受けており有効かつ妥当なものである。

適正な会計処理を税理士法人と連携して行い、その後、監事による会計監査、理事会、評議委員会における監査報告を行い、承認を受けている。

財務情報公開についても、閲覧希望者には湖南学園事務局で公開するなど適正に対処している。

9. 法令等の遵守		評価
40	9－1　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41	9－2　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
42	9－3　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
43	9－4　自己点検・自己評価結果を公開しているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

当校は学園顧問弁護士監修の基、法令、設置基準等を遵守し、文科省、法務省、東京都、新宿区への各種報告も定期的に行っている。

個人情報に関しては扱う職員を限定し、情報漏洩を防止するため、外部ネットワークから遮断された環境で取扱いを行っている。個人情報の管理を行う PC のみならず、コンピューターウイルス感染予防のため、ファイアウォールを設置、ウイルスソフトウエア類も常に最新のものにアップデート行い、ウイルス感染予防に努めている。

学校の自己点検・自己評価は２年に１回実施し、実施のたびホームページで公開している。

10. 社会貢献		評価
45	10－1　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
46	10－2　学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

校舎屋上にＮＴＴドコモの基地局を設置し、学校周辺地域の電波環境の向上に貢献している。また、校舎敷地内に自動販売機を設置し、市価より安価で飲料を販売し、周辺居住者等にも多くの利用がある。学校が設置されているのが、新宿区内ということで街の防犯も意識しなければならいないため、今後は校舎に防犯カメラを設置し、犯罪等が発生した際に捜査機関に協力できる体制を構築したい。

学内の掲示板には求人票の他、ボランティア等案内があれば掲示し参加を募っている。学校が指定したボランティア活動に参加した場合、授業第一の観点から回数に制限を設けるが、授業を出席扱いする配慮も

行っている。

総括

　現在、各項目においておおむね目標が達成されていると考えるが、社会貢献への対応についてはさらに地域性、学問分野に沿って学校としてできることを検討していく必要があるだろう。

　現在問題がない部分についても時代の流れとともに変化していく部分もあるので、定期的に見直しを行い、さらに充実させていきたいと考える。

令和６年６月 17 日
学校法人湖南学園
早稲田外語専門学校
校長　井上　正

2023 年度早稲田外語専門学校　自己点検・自己評価に対する学校評価委員評価

2023 年度学校関係者評価委員会は、2023 年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を行いましたので、下記の通り報告いたします。

1.対象期間：2023 年（令和５年）４ 月 1 日～2024 年（令和 6 年）3 月 31 日
2.開催日時：2024 年（令和６年）６月 14 日（金）
3.開催場所：早稲田外語専門学校

〇学校関係者評価委員

・上野文也　卒業生　駒澤大学文学部
・樋口未来　卒業生　楽天ソシオビジネス株式会社
・付　佳子　当校元職員　株式会社佐藤商事

学校の自己点検・自己評価につき下記の判定基準により評価。各評価は評価委員による評価の平均値。

＜評価基準＞
５：達成していると思われる
４：ほぼ達成していると思われる
３：どちらとも言えない
２：若干の改善をするべきと思われる
１：全面的に改善をするべきと思われる

１．教育理念・目的等　　評価

1－1	理念・目的・育成人材像は定められているか	5.0
1‐2	学校の特色は何か	5.0
1‐3	学校の将来構想を抱いているか	5.0
1‐4	理念に基づく教育が行われているか	5.0

2．学校運営について　　評価

2‐1	運営方針は定められているか	5.0
2－2	事業計画は定められているか	5.0
2－3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5.0
2－4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5.0
2－5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5.0
2－6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5.0
2－7	危機管理体制は整備されているか	4.7
2－8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5.0

3．教育活動について　　評価

3－1	カリキュラムは体系的に編成させているか	4.7
3－2	授業評価の実施・評価体制はあるか	4.7
3－3	目標に向け授業を行うことができる要件資質を備えた教員を確保しているか	5.0
3－4	成績評価は適切に行われているか	5.0
3－5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5.0

4．学習成果について　　評価

4—1	就職率の向上が図られているか	4.7
4－2	資格取得率の向上が図られているか	4.7
4－3	退学率の低減は図れているか	4.7
4－4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5.0
4－5	卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	5.0

5．学生支援について　　評価

5－1	学生相談に関する支援体制は整備されているか	5.0
5－2	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	5.0
5－3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5.0
5－4	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.7
5－5	保護者と適切に連携しているか	4.7
5－6	卒業生への支援体制はあるか	4.7
5－7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	5.0

6．教育環境ついて　　評価

6－1	施設・設備は、教育上の必要性を十分対応できるよう整備されているか	4.7
6－2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4.7
6－3	英語教育に適切な教員は配置されているか	4.7

7．　学生の募集と受け入れ　　評価

7－1	高等学校等接続機関に対する情報提供等の取り組みは行っているか	5.0
7－2	学生募集活動は、適正に行われているか	5.0
7－3	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	5.0
7－4	学生納付金は妥当なものとなっているか	5.0

8．財務について　　評価

8－1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4.7
8－2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.7
8－3	財務について会計監査が適正に行われているか	4.7

9．法令等の遵守	評価
9－1　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5.0
9－2　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5.0
9－3　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5.0
9－4　自己点検・自己評価結果を公開しているか	5.0

10．社会貢献	評価
10－1　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4.7
10－2　学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4.7